

JP1318136

Publication Title:

DATA PROCESSOR

Abstract:

Abstract of JP1318136

PURPOSE:To operate data relating to the using state of an equipment from a high-order application group by recording a user name and a log-on time at the time of certifying the user name and a password, and at the time of opening the password, recording log-off time. **CONSTITUTION:**A user name and log-on time are recorded in a data recording means 63 of a log forming device 6 in a data processor at the time of certifying the user name and a password, and at the time of opening the password, log-off time is recorded. A document file for storing the recorded user name and the log-on and log-off time is formed by a document file forming means 64 and a log table for recording these data is also formed. The user name and the log-on and log-off time recorded in the means 63 are written by a log table writing means 65 and the written data are sent to a controller.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平1-318136

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成1年(1989)12月22日

G 06 F 15/00

3 2 0

K-7361-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑥ 発明の名称 データ処理装置

⑦ 特 願 昭63-151473

⑧ 出 願 昭63(1988)6月20日

⑨ 発 明 者 南 崎 由 任 埼玉県岩槻市大字岩槻1275番地 富士ゼロックス株式会社
岩槻事業所内

⑩ 出 願 人 富士ゼロックス株式会 東京都港区赤坂3丁目3番5号
社

⑪ 代 理 人 弁理士 木村 高久

明 細 書

1. 発明の名称

データ処理装置

2. 特許請求の範囲

あらかじめ設定されたユーザー名とパスワードにより、使用者を識別するデータ処理装置において、

ユーザー名とパスワードの認証時にユーザー名とログオン時刻を記録すると共に、パスワードの開放時にログオフ時刻を記録し、さらにこれらの記録データを文書ファイル内のログテーブルに書き出すログ作成装置を設けたことを特徴とするデータ処理装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、ワープロやパソコン、ワークステーション等のデータ処理装置に関する。

(従来の技術)

近年、コンピュータ及びその周辺機器のめざ

ましい進歩により、オフィスにも各種のOA機器が投入されているが、これらOA機器の中でも特に人気のある高級ワープロやパソコン、ワークステーションなどは高価なため、複数の人間が共同で使用する場合が多い。

(発明が解決しようとする課題)

しかし、従来は機器のそばに置いてある用紙に「〇月〇日、AM10時～12時まで、営業課、△山△男」といった程度のメモを残すぐらいなので、期末に使用状況を統計的に処理する際に、多くの労力と時間を要するという問題点があった。これは新たな設備投資のための基礎データを作成するうえで大きな障害となっていた。

この発明は、上記実情に鑑みなされたもので、ユーザー名と使用時刻に関するデータを、文書ファイル内のログテーブルに書きだ出することができデータ処理装置を提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段及び作用)

上記課題を解決するため、この発明に係るデータ処理装置においては、ユーザー名とパスワード

ドの認証時にユーザー名とログオン時刻を記録すると共に、パスワードの開放時にログオフ時刻を記録し、さらにこれらの記録データを文書ファイル内のログテーブルに書き出すログ作成装置を設けることにより、機器の使用状況に関するデータを、より高位のアプリケーション群から操作できるようにしている。

(実施例)

以下、この発明に係るデータ処理装置の一実施例を説明する。

第1図は、この発明に係るデータ処理装置をワークステーションに適用した場合の全体構成を示すブロック図である。図において、1はこのワークステーションに接続されたローカルエリアネットワーク、2はユーザー名やパスワードのほか、ワークステーションに対して各種の指示を入力するためのキーボード、3はファイルが保存されたディスク装置、4はディスプレイ装置であり、キーボード2からの入力された指示や、ワークステーションの中に格納されていたデータ等を表示す

を記録し、パスワードの開放時にログオフ時刻を記録する。64は文書ファイル作成手段であり、記録されたユーザー名とログオン、ログオフ時刻を格納するための文書ファイルを作成すると共に、さらにユーザー名とログオン・ログオフ時刻を記録するためのログテーブルを作成する。65はログテーブル書き込み手段であり、前記文書ファイル内のログテーブルに、データ記録手段63に記録されたユーザー名とログオン・ログオフ時刻を書き出し、この記録データを制御装置5に送出する。

次に、このようなログ作成装置6の各部の動作を説明する。まず、入力情報確認手段62は、ユーザー名とパスワードが入力されると、このデータが内部に登録されている内部データと一致するかどうかを確認し、一致する場合はデータ記録手段63にユーザー名を出力する。データ記録手段63では、このユーザー名を記録すると共に、時刻手段61からの時刻信号に基づいて、ユーザー名とパスワードの認証時のログオン時刻を記録す

る。5は制御装置であり、データの検索・処理やディスク装置に保存されたファイルの呼び出し・保存のほか、上記各部の駆動・制御等を行なう。

6はユーザー名とパスワードの認証時とパスワードの開放時に、ユーザー名とログオン・ログオフ時刻を記録し、これらのデータを文書ファイル内のログテーブルに書き出すログ作成装置である。

このワークステーションでは、キーボード2からユーザー名とパスワードが入力されると、入力されたユーザー名とパスワードがあらかじめ登録されている内部データと一致するかどうかを調べ、一致した場合にのみアクセス権が与えられるように構成されている。

第2図は前記ログ作成装置6の基本構成を示すブロック図である。図において、61は現在時刻信号を発生する時刻手段、62は入力されたユーザー名とパスワードが内部に登録されているデータと一致するかどうかを確認する入力情報確認手段、63はデータ記録手段であり、ユーザー名とパスワードの認証時にユーザー名とログオン時刻

る。次に、ユーザーが通常の処理業務を終了し、パスワードを解放すると、データ記録手段63は、パスワードの開放時のログオフ時刻を記録する。そして、これらのデータが所定の数だけ蓄えられると、ログテーブル書き込み手段65は、文書ファイル作成手段64により作成された文書ファイル内のログテーブルに、前述した記録データを書き込み、制御装置5へ出力する。

第3図は、上述したログ作成装置6をマイクロコンピュータを用いて構成した場合の一例を示すブロック図である。第3図に示すように、ログ作成装置6を構成するマイクロコンピュータは、CPU(中央処理装置)6a、RAM6b、ROM6c、時刻回路6dを主要構成要素として備えている。

次に、上述したログ作成装置6における処理手順を第3図の構成ブロック図及び第4図～第6図のフローチャートに基づいて説明する。

まず、ログ作成を行なう前に、CPU6aは、RAM6b内にログファイルが存在するかどうか

を確認し、存在していない場合はログファイルを作成して、アドレス番号 n を0に初期化する。

次に、ログオン時の処理手順を第4図のフローチャートを用いて説明する。まず、ユーザー名とパスワードが入力されると(ステップ101)、CPU6aはこれらのデータが、あらかじめ登録された内部データと一致するかどうかを判断する(ステップ102)。ユーザー名とパスワードが内部データと一致し、認証されると、CPU6aは、この認証時のログオン時刻を時刻回路6dから読み出す(ステップ103)。次に、ログファイルのアドレス n に1を加え(ステップ104)、その n 番目のフィールドにユーザー名とログオン時刻を記録する(ステップ105)。

次に、ログオフ時の処理手順を、第5図のフローチャートを用いて説明する。まず、通常の処理業務が終了して、ユーザーがパスワードを開放すると(ステップ201)、CPU6aは、このパスワード開放時のログオフ時刻を時刻回路6dから読み出し(ステップ202)、ログファイルの

n 番目のフィールドにログオフ時刻を記録する(ステップ203)。

このような操作によって、ログファイルには、例えば第7図に示すようなデータが時系列に記録されていく。そして、この記録データをある程度蓄えた後、RAM6bの内部に作成されたログファイルを文書ファイル内のログテーブルに書き出す作業を行なう。

次に、ログファイルのデータを文書ファイル内のログテーブルへ書き出す時の処理手順を第6図のフローチャートを用いて説明する。

まず、CPU6aは、内部のログファイルのデータを文書ファイル内のログテーブルに書き出す指示が与えられているかどうかを判断し(ステップ301)、ログテーブルへの書き出しの指示が与えられている場合は保存のための文章ファイルを作成すると共に(ステップ302)、この文章ファイル内に所定の書式に基づいてログテーブルを作成し(ステップ303)、内部のログファイルのデータをこのログテーブルに書き出す(ステ

ップ304)。次に、CPU6aは、内部のログファイルのデータを初期化する指示が与えられているかどうかを判断する(ステップ305)。ここで初期化する指示が与えられている場合は、ログファイルのデータを初期化して(ステップ306)処理を終了する。一方、初期化する指示が与えられていない場合は、データをそのままにして処理を終了する。なお、この場合はログファイルの $n+1$ 番目のアドレスから次のデータが記録される。

このように、内部のログファイルのデータを、文書ファイル内のログテーブルに書き出し、機器の使用状況に関するデータを、より高位のアプリケーション群から簡単に操作できるようにしたため、多くの統計的処理に要する工数を、大幅に少なくすることができる。

なお、上記実施例では、ログ作成装置内にユーザー名とパスワードを確認する入力情報確認手段を設けた場合について説明したが、ユーザー名とパスワードが認証されたときのユーザー名のデー

タは、制御装置内に設けられた入力情報確認手段から入力するようにしてもよい。

また、この実施例では、ログ作成装置を制御装置と別体に設けた例について述べたが、ログ作成装置を制御装置内に組み入れ、制御装置内のCPU等を使って同様の処理を行なわせるようにしてもよい。

(発明の効果)

以上説明したように、この発明に係るデータ処理装置においては、ログオン時とログオフ時のユーザー名と時刻のデータを、文書ファイル内のログテーブルに書き出すようにしたため、機器の使用状況に関するデータを、より高位のアプリケーション群から簡単に操作することができ、多くの統計的処理をより少ない工数で実施することが可能となる。

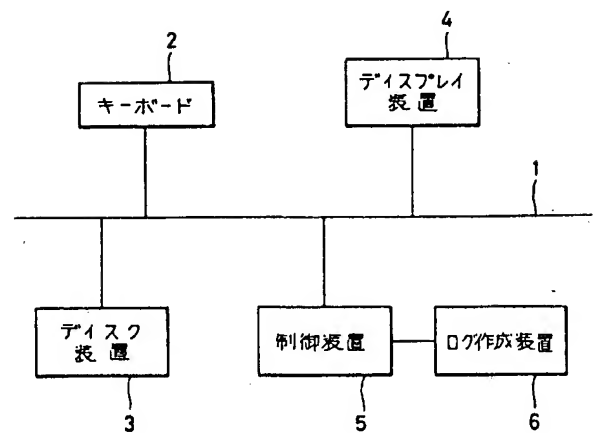
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明に係るデータ処理装置をワークステーションに適用した場合の全体構成を示すブロック図、第2図はログ作成装置の基本構成

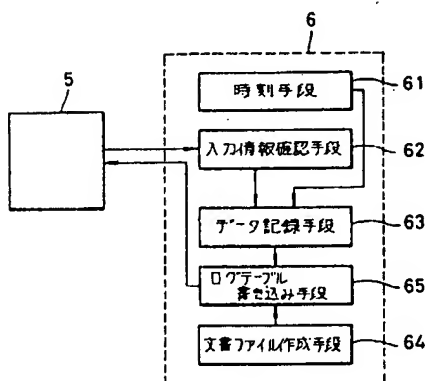
を示すブロック図、第3図はログ作成装置をマイクロコンピュータを用いて構成した場合の一例を示すブロック図、第4図～第6図はログ作成装置の処理手順を示すフローチャート、第7図はログファイルの一例を示す図である。

1…ローカルエリアネットワーク、2…キーボード、3…ディスク装置、4…ディスプレイ装置、5…制御装置、6…ログ作成装置、61…時刻手段、62…入力情報確認手段、63…データ記録手段、64…文書ファイル作成手段、65…ログテーブル書き込み手段。

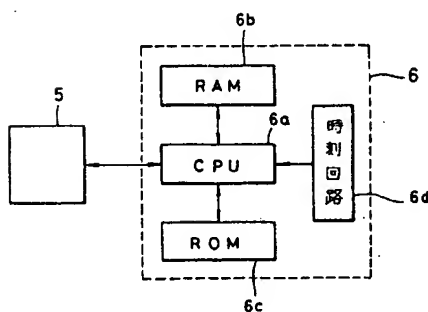
出願人代理人 木村高久



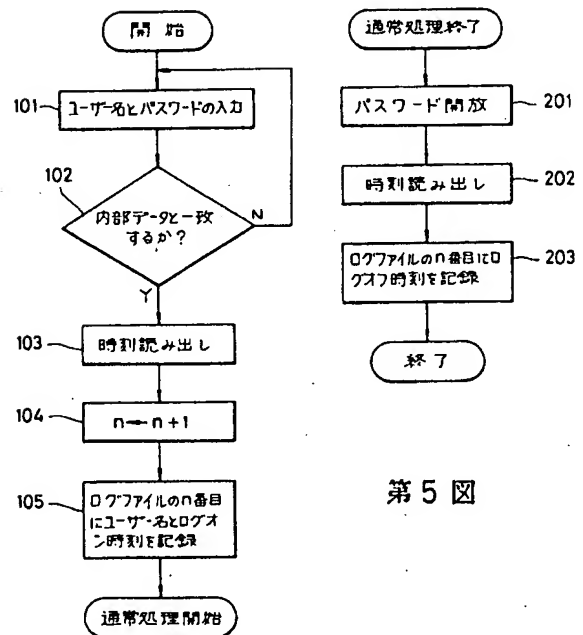
第1図



第2図

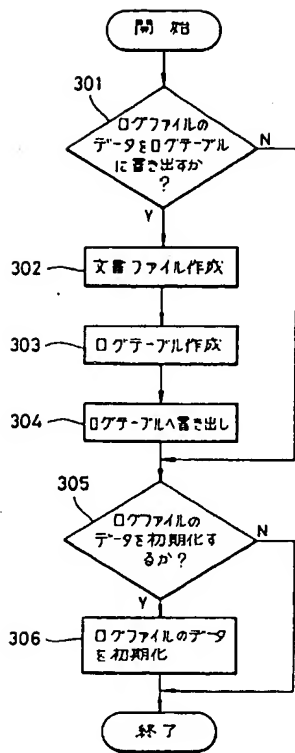


第3図



第5図

第4図



第 6 図

ユーザー名	ログオン時刻	ログオフ時刻	日付
○岡 ○郎	9 : 59 : 28	11 : 13 : 12	5 . 17
□林 □子	11 : 15 : 03	12 : 14 : 19	5 . 17
△中 △子	13 : 01 : 42	17 : 12 : 24	5 . 17
▽藤 ▽誠	8 : 31 : 25	10 : 19 : 22	5 . 18
⋮	⋮	⋮	⋮

第 7 図